

自己を見つめ、道徳的価値についての理解を深める授業を目指して

－交流メモの活用から考えの深まりを感じさせる振り返りの工夫を通して－

松島町立松島中学校 植松 信行

1 授業づくりに関わる課題

本学級の道徳科の授業では、発問に対して素直に考えようとする生徒が多く、互いの考えを聞き入れる雰囲気が見られる。一方、交流場面では、建前上の意見交換になったり、本音で語り合うことが少なかったりすることが多い。また、振り返りの記述から、価値への深まりが読み取れない生徒が多く見られる。これらは、教師の指示が曖昧であるなど交流場面でのファシリテートが不十分なため議論したり本音で語り合ったりするまでに至っていないことや、振り返りの時間が十分に確保できず、価値に立ち戻っての振り返りができていないことなどが原因だと考えられる。また、生徒の意見や考え、その内にある価値について本当に受け止められているのかどうか十分に把握できていないと感じている。以上のことから、一人一人が自分の考えを持ち、多様な考え方や価値観があることを実感させられる授業を目指したいと考え、本主題「自己を見つめ、道徳的価値についての理解を深める授業を目指して」を設定した。

2 研究の内容と方法

自己を見つめ、道徳的価値についての理解を深める授業を目指すためには、交流場面で多様な考えを出し合う交流方法の工夫と振り返りの工夫が必要だと考え、目指す授業を達成するために、以下の2点について手立てを講じることとした。

(1) 手立て1：交流メモの活用

多様な考え方や価値観に触れさせ、様々な角度から物事を考えられるようにするために、少人数での交流の際、友達の考えの「共感できる」や「自分とは違う」などの考えをメモさせる。それを基に、相互に発言や質問をし、交流を図ることで、多様な考え方や価値観に触れることができると考えた。また、交流メモの活用を継続的に行うことで、徐々に多様な視点で物事を考えられる効果があると考えた。

(2) 手立て2：考えの深まりを感じさせる振り返りの工夫

導入時と終末時それぞれに、主題に関するテーマとその考えをワークシートに記入させる。終末時には、導入の際の発問をより具体的に問い、考えを書かせ、可視化された自分の考えを見比べさせ、道徳的価値についての深まりに気付かせる。

導入時は、道徳的価値に対する問題意識を持たせること、終末時は、道徳的価値に対する自分の考えの深まりを自覚させることに効果があると考えた。また、交流メモを見ながら振り返ることで、友達の考えを参考にしながら、自分の考えの広がりや深まりに気付かせていく。

3 I期の取組

授業実践 I

主題名 支え合いの中で「B 思いやり、感謝」

教材名 「愛」（東京書籍 新しい道徳2）

(1) 交流メモの活用について（手立て1）

教材の中で様々な「支え合い」があることに気付かせた上で、自分のこととして考えさせる「支え合う上で大切にしたいことは何だろう」を中心発問とした。教材の中の様々な「支え合い」に触れることで、多くの視点から考えが出されるのではないかと考え、中心発問の場面で交流メモを活用することを試みた。日常の中で「思いやりや感謝」（支え合い）について、できるだけ多く大切だと考えることを書くよう話したところ、生徒は「自分よりも相手のことを優先する」や「感謝の気持ちを言葉や行動にする」などが挙げられ、実際の生活の中で、すぐにできることもあることに気付くことができた。交流場面では、多くの生徒が友達の考えをメモとして書き残す様子が見られた。また、出された考えを全体の場でも発表させ、共有することができた。

(2) 考えの深まりを感じさせる振り返りの工夫について（手立て2）

導入では、テーマである『支え合い』とは何か』を提示し、自分の考えを書かせることで、本時のねらいについて問題意識を持たせた。展開後段では、教材から気付いた「支え合い」について自分に置き換え、自分の実際の生活の中での「支え合い」について考えさせた。友達と交流させ、道徳的価値についての深まりを実感させた上で、振り返りを行った。振り返り際には、「友達と交流することで考えの深まりがあったか」「新たに考えることがあったか」など道徳的価値に対する考えの深まりの実感があったかどうかにも触れながら振り返るよう声掛けした。そうしたことで、「～さんの考えに共感できた」など友達の考えにも触れながら振り返りを記入するなど、

メモを活用している生徒が一部に見られた。

(3) 成果と課題（成果○ 課題▲）

① 交流メモの活用について

- 友達の考えをメモ欄に多く書き入れる様子が見られ、多くの考えの交流につながった（図1）。

図1 交流したことをメモに残している生徒のワークシート

- ▲ グループで交流する際、メモをすることが目的になっている様子が見られた。
- ▲ 交流の際、発表を聞きながら、キーワードでメモすることを指示したが、一語一句メモをとることに徹している姿が見られ、形式的になっている様子がうかがえた。

② 振り返りについて

- 友達の考えも参考にしながら振り返りを記入し、交流した際のメモを活用している生徒が一部に見られた（図2）。

図2 友達の考えに触れながら記入した生徒の振り返り

- ▲ 振り返りの記述内容から、交流メモを活用した振り返りになっているかどうか見取ることができない生徒も見られた。

4 II期の取組

授業実践Ⅰの課題を受けて、Ⅱ期では、2つの手立てを継続して行いつつ、より活発に交流できるようにすることと、価値の理解の変化をより実感できるよう工夫して実践を行った。

授業実践Ⅱ

主題名 自分を信じて生きるとは「B よりよく生きる喜び」
教材名 「本当の私」（東京書籍 新しい道徳2）

(1) 交流メモの活用について（手立て1）

I期の実践の反省を基に、発表を聞きながら、キーワードでメモすることを指示したが、一語一句メモをとることに徹している生徒も見られ、形

式的になっていた様子もうかがえたことから、Ⅱ期の授業では、中心発問における自分の考えを思い付くだけキーワードや単語で書かせることにした。教材の様々な視点や価値から思い付くだけ考えを出させるために、キーワードで多く考えを出させるようにした。その後、小グループ内で友達と交流を図った。その際、自分にはなかった考えや深く考えているものについてメモをさせた。キーワードを手掛かりに、詳しく自分の考えを説明するよう指示した。最後に、自分の考えと友達の考えの両方のメモを活用し、参考にしながら自分の考えを改めて文章で書かせるようにした。

本授業では、「エイミーが、ドーピングを告白したのはなぜだろう」について考えた。様々なキーワードが出され、ワークシートのメモ欄へ多く書き入れる様子が見られた。メモについては、ワークシートの中にキーワードで書くことができるよう、授業実践Ⅰの際のレイアウトから大きく修正を行った（図3）。

今日の振り返り	
友達の考えを聞いて、自分の考えを広げることができたか。	4・3・2・1
価値（テーマ）について、深く考えることができたか。	4・3・2・1
教材は価値（テーマ）について考えやすいものだったか。	4・3・2・1
今日の学習全体を通して感じたこと、考えたことを書きましょう。	

図3 授業実践Ⅱのワークシートのレイアウト

(2) 考えの深まりを感じさせる振り返りの工夫について（手立て2）

道徳的価値について、自分の考えの深まりを視覚により実感させられるよう、テーマについての導入場面における自分の考えと展開後段における自分の考えを可視化し、見比べやすいようワークシートのレイアウトの工夫を行った（図3）。本授業では、導入時に『よりよく生きる』とはどのようなことだろうを考えさせ、展開後段では、自分のこととして考えさせる「自分にとって『よりよく生きる』とはどのようなことだろう」を考えさせた。展開前段で得られた交流メモを活用し、

友達の考えから、新しいものの見方や考え方を生み出したり考えを深めさせたりする機会にし、展開後段に交流メモを見直すことで、道徳的価値の深まりを実感させながら、改めて自分の考えを記入させた。振り返りでは、可視化された考えを見比べることで導入時からの自分の考えに深まりがあったかどうかを考えさせながら振り返りを行わせた。そのことで、生徒の記述から価値の深まりの実感がうかがえた。

(4) 成果と課題（成果○ 課題▲）

① 交流メモの活用について

- キーワードで書かせたことで、多くの考えが出やすくなった。また、書く際には、交流メモを活用し、自分の言葉で捉え直して書く姿が見られた。（図4）。

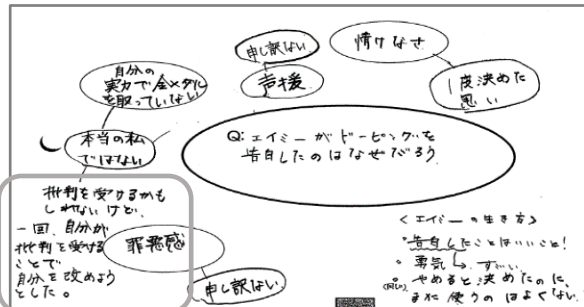


図4 メモを活用して自分の考えを見いだしている記述

▲ 4人グループでの意見交換の際、自然な交流も見られたが、発表した後に質問や説明などの交流が見られず、形式的な状況もいまだ見られた。

▲ 発問を具体化することで、より多面的・多角的な深い考えを引き出せたのではないかと考える。中心発問が「エイミーがドーピングを告白したのはなぜだろう」だったが、「非難を浴びるだろうと分かっていたのに、なぜ告白したのだろう」と具体化すれば、弱さを告白することで強くなろうとする主人公の生き方をより深く考えさせられたのではないかと考える。

② 振り返りについて

- 導入時のテーマの捉えよりも展開後段の捉えが、より具体的に多くの視点から記入されており「道徳的価値の理解の深まり」が見て取れる生徒が多く見られた（図5）。

- 振り返りにおいて、学習したことを反映させて書いており、「自分の考え」を考え直す生徒や、「道徳的価値の理解の深まり」が見て取れる生徒が一部に見られた（図6）。

▲ 本時のテーマについて、展開後段時に自分のこととして考えさせる際、「現時点での自分の立ち位置」を捉えさせる問い掛けなどがあると、更に深く考えさせることができると考える。

▲ 記載内容からだけでは、導入時からの変容が

見られない生徒も一部見られた。

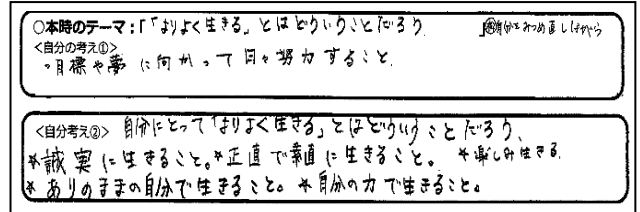


図5 テーマに対する自分の考えの可視化により、考えの深まりを実感させた（上段：導入時、下段：展開後段時）

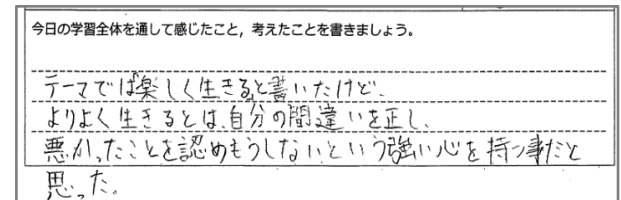


図6 振り返りにおいて、価値の深まりを実感した生徒の記述

5 まとめ

(1) 研究の成果

① 授業実践を通して

自己を見つめ、道徳的価値の理解を深める授業を目指し、実践を行ってきた。特に、多様な考え方や価値観があることを実感し、多面的・多角的に考え、理解できるよう、友達との交流を大切にし、時間を確保してきた。その結果、いくつかの変化が見られた。まずは、交流することがこれまで以上に自然に、更に活発に行われるようになってきたことである。道徳の授業だけではなく、日頃から学級活動や帰りの会などの諸活動で、ペアや少人数で交流させる場面を意図的に設定したことで、スムーズに行える雰囲気になってきた。また、日々の道徳の授業では、「考えは一つでなくていい」ことや「答えがある訳ではない」ということを確認し続けてきた。その上で、友達の考えの中で、「共感できる」や「自分とは違う」などの考え、さらには「自分と似ているが、より深く考えている」や「自分にはない新たな視点で考えている」などを意識させてメモをさせ、道徳的価値に対して自分が考えた内容を再考する際に活用するよう継続して声掛けしてきた。それにより、メモを多く残し、テーマについて自分のこととして考える際や振り返りの際に、そのメモを活用する姿が見られるようになった。

振り返りについては、可視化された導入時の「自分の考え」から深まりや考え直すことがあったかどうか見比べることができることで、道徳的価値についての「自分の考え」を授業の中で深めたり考え直したりすることができるようになっていったことが、生徒のワークシートの記載から見て取れるようになった。

② アンケート結果から得られた成果

上記の取組を継続したことで、アンケート結果から、いくつかの項目で効果が得られたと考えられる。一つ目は、「道徳の授業の中で、友達の考えを聞くことで、自分の考えが広がったと感じる生徒の増加」と「道徳の授業の中で、友達の考えを聞くことで、自分の考えが深まったと感じる生徒の増加」である（図7、図8）。

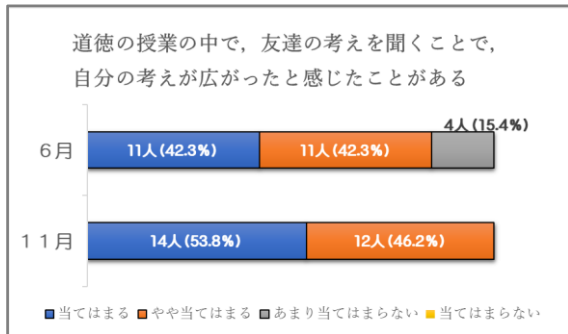


図7 授業アンケート結果①

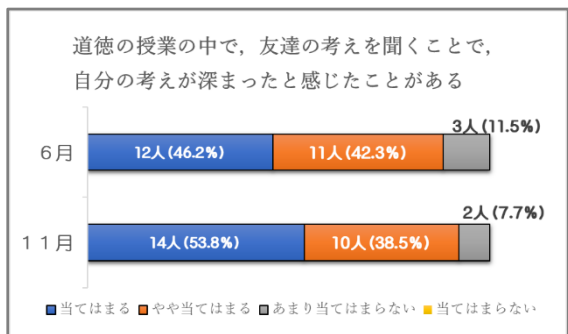


図8 授業アンケート結果②

6月当初の数値も低いものではなかったが、交流することがこれまで以上に活発に行われるようになってきたことが理由の一つだと考えられる。また、友達の考えを積極的にメモし、道徳的価値に対して自分が考えた内容を再考する際に活用するよう声掛けを継続した結果、9割以上の生徒が自分の考えが広がり、深まったと実感したことに繋がったと考えられる。

二つ目は、「道徳の授業の中で『自分の考え』を考え直すことがあったと感じる生徒の増加」である（図9）。

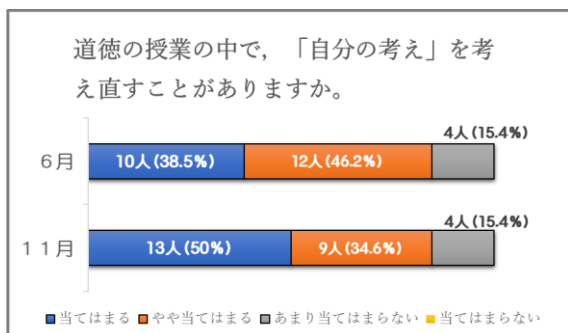


図9 授業アンケート結果③

可視化された導入時と展開後段の「自分の考え」を見比べることで、振り返りにおいて、「テーマに対する自分の考えが変わった」などの記入が一部に見られ、道徳的価値についての「自分の考え」を考え直す実感につながったのではないかと考えられる。また、友達と交流することで、共感できたり参考になったりする考えと触れ合うことができる。それを通して自分のこれまでの経験や行動を振り返るなど自己をじっくり見つめることにつながり、より自分の見方や考え方の変化に気付くことができたからではないかと考えられる。

(2) 今後の課題

① 交流方法の一層の工夫

交流の際、メモすることを継続してきたことで、友達の考えに真剣に耳を傾け、メモをする姿が見られるようになってきた。一方、依然としてメモをすることが形式的になっていることが改善されていない様子も見られる。有効に働いている交流メモを活用する場面と、交流をメインにする場面を分けるなどより効果的な方法を探っていきたい。

② 自分のこととして捉えさせる発問の工夫

中心発問における生徒の考えが様々な視点から出されるようになってきた。今後は、道徳的価値について自分のこととして考えさせる際、「現時点での自分の立ち位置」で考えさせる発問を工夫したり、問い返したりするなど更に深く考えさせたい。じっくりと自分を見つめさせることで、道徳的価値についての理解が深まると考える。

【図表等の許諾について】

授業実践前後に実施した意識調査の結果の記載に当たり、所属校の校長から使用許諾を得た。

図1～2、4～6は、授業実践の中で生徒が記入したワークシートの一部である。氏名を伏せて掲載することとし、生徒の保護者から使用許諾を得た。

【引用・参考文献】

文部科学省：中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別の教科 道徳編